

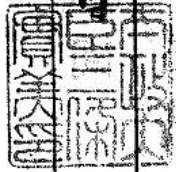
給可致候條御許容相成候様仕
度此段奉伺候也

明治七年十月四日 開拓長官黑田清隆

太政大臣三條實美殿

伺之趣條約書案相副更三可
伺出事

明治七年十一月十八日



甲寅之拾六号

屯田憲兵例則ノ義伺

北海道屯田兵設置ノ義演武ノ方法等ハ陸軍省
商議ノ上可伺出旨昨年十二月中御達相成居候
處憲兵ノ本旨ニ基キ實際ノ事狀ヲ參酌致シ陸
軍省照會ヲ經別記ノ通地方適宜ノ方法調査致
候尤ニ實地施行ノ際萬一差支ノ慮有之候節ハ
臨機處分ノ上開申可仕候條此旨御允裁有之度
此段奉伺候也

明治七年十月十日

十月

三号

月

日

庚

十三号四行七

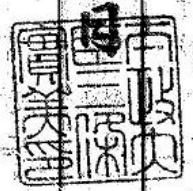
④

陸軍中將兼開拓長官黒田清隆

太政大臣三條實美殿

伺之趣聞届候事

明治七年十月三十日



緒言

開拓ノ業漸ク緒ニ就キ戸口從テ繁殖ス之ヲ保
 護スルノ兵備無カルヘカラス故ニ今般政府ノ
 允裁ヲ經徃古兵ヲ農ニ寓スルノ意ニ基キ屯田
 ノ制ニ倣ヒ新タニ人民ヲ召募シ兵隊ニ編入シ
 其土地ノ保護ヲ為サシムル其撰ニ充ル者專
 ラカク耕稼ニ盡シ有事ノ日ニ方テ其長官ノ指
 揮ヲ專シ兵役ニ從事ス可シ故ニ平日農隙ヲ以
 テ訓練ヲ為シ極テ尺失ナキヲ要ス因テ條例規則ヲ
 左ニ掲ク

長
官
適
宜
ニ
編
制
諸
隊
ヨリ
取
リ
テ
其
員
ヲ
充
タ
ス
ハ
シ

元田兵

編制

一 元田兵ハ 徒歩憲兵ニ 編制シ 有事ニ 際シテ 速
カニ 戦列兵ニ 轉スルヲ 要ス
一 上下士官ノ 數多キヲ 以テ 聯隊大隊等ニ 属ス
ル 列外諸員ノ 内 平常ハ 格別ニ 之ヲ 置カサル
モノ 多シ 故ニ 聯隊大隊ノ 長官 適宜ニ 編制 諸
隊ヨリ 取リテ 其員ヲ 充タスハシ
一 元田兵ハ 一伍ヨリ 組テ 終ニ 聯隊ニ 至ル 即チ
左ノ 如シ

月
石
吏

開 揚 任

但シ一小隊ハ六伍一小隊ハ四小隊一中隊
ハ二小队一大隊ハ二中隊一聯隊ハ三大隊
ニシテ之ニ附属スル諸官ヲ合ス者ナリ

一伍

准伍長

一名

兵卒

四名

一小隊 即チ六伍

准少尉 小队長

一名

准軍曹

二名

准伍長

六名

兵卒

二十四名

計三十三名

一小隊 即チ四小队

准中尉 小队長

一名

准少尉

四名

准軍曹

八名

准伍長

二十四名

兵卒

卒六名

喇叭卒

四名

月 日 時

計百三十七名

一中隊 即千二小隊

準大尉 中隊長 一名

準中尉 二名

準少尉 八名

準曹長 一名

準軍曹 十六名

準伍長 甲八名

兵卒 百五十二名

喇叭卒 八名

計二百七十六名

一大隊 即千二中隊

準少佐 大隊長 一名

準大尉 二名

準中尉 四名

準少尉 十六名

會計方 一名

匡官 一名

一聯隊
副官
准曹長
准軍曹
准伍長
哨兵
卒
計五百五十七名

下副官准曹長 一名

准曹長 二名

准軍曹 三十三名

准伍長 九十六名

哨兵准伍長 一名

兵卒 三百十四名

哨兵卒 十六名

計五百五十七名

一聯隊 即三大隊

准中佐 聯隊長 一名

准少佐 三名

准大尉 六名

准中尉 十一名

准少尉 四十八名

會計方准少尉 三名

医官 三名

下副官准曹長 三名

准曹長 六名

開拓使

準軍曹

卒六名

準伍長

二百十八名

哨以準伍長

三名

兵卒

千百五十二名

哨以卒

四十八名

計千六百七十二名

檢査

年齢 十八歳乃至三十五歳身體強壯ナル者

下士以下昇級法

一曹長以下ノ欠員アル所之ヲ補フニハ少クモ
左ノ時間ヲ經シ者ニ非レハ之ニ任スルヲ得
ス

位長 比田兵トナリテ六ヶ月ヲ經シ者

軍曹 比田兵伍長トナリテ六ヶ月ヲ經シ者

曹長 比田兵軍曹トナリテ六ヶ月ヲ經シ者

下副官 比田兵軍曹トナリテ一ケ年ヲ經シ者

勤務

月 日 年

一 聯隊長ハ其保護ヲ要スル最大緊要ノ地ニ在
テ部下諸大隊ヲシテ力所及其連絡ヲ失ハス
有事ニ際シテ連ニ一定ノ地ニ集合セシムル
ヲ要ス

一 有事ニ際シテ集合ノ場所ハ各小隊毎ニ適宜
ニ定メ置キ兵卒全ク集合スル小隊長之ヲ
引率シテ又各定メラレタル地ニ到ルヘシ
一 屯田兵諸勤務ハ凡ソ憲兵ノ規則ニ據ルヘシ
一 屯田兵目今北海道ニ於テハ人民寡少事務閑
暇ナルヲ以テ其細目ノ如キ之ヲ行フ片ハ却

テ律度ヲ生スルキカ故ニ各長官適宜ニ處分
スルヲ以テ可トスヘシ

一 火災洪水其他非常ノ際ニ於テハ屯田兵直チ
ニ其場所ニ出張シ人民ノ危急ヲ救ヒ又諸物
品ノ保護ヲ為ヘシ

一 銃器農具等ニ損所アル片ハ伍長ニ申出伍長
ヨリ係リ軍曹ニ申報スヘシ

一 一ヶ月ニ一度伍長ハ屯田ノ武器ヲ検査シ鏽
損所破綻等ヲ改ムヘシ

一 練兵ハ十二月ヨリ四月ニ至ル農事ノ間ニ當

テ各牙ニ中隊或ハ大隊ノ生兵ヲ集合シ生兵
小隊撒兵射的ノ演習ヲ一過スルヲ要ス已ニ
一過セシ兵ニ於テハ農間ニ當リ各長官ノ見
ヲ以テ時々復習セシムルヲ以テ足レリトス

休 暇

一私用ニテ十里以外ニ出ル者或ハ一泊ノ旅行
ハ小隊長ノ許可ヲ得ニ泊以上ハ中隊長ノ許
可ヲ得ヘシ
一定例ノ休日ヲ除ク外開墾地ニ出勤スヘシ

但病氣其他事故アル片ハ其長ニ届出ツヘ
シ

一年中休業日左ノ如シ

元始祭 一月三日

孝明天皇祭 一月三十日

紀元節 二月十六日

神武天皇祭 四月三日

札幌神社祭 六月十五日

天長節 十一月三日

招魂祭

開揚
招
使

父母ノ祭日

十二月二十七日ヨリ一月七日マテ

諸給助及貸渡畧械定別

一 諸給興ハ屯田ノ家宅ニ入ルヨリ滿三年ヲ限

トス

一 疾病アル者ハ給助年限中医薬ヲ給シ死スル

者アルハ埋葬料ヲ給スヘシ

一 軍功死傷等ノ處分ハ都テ一般ノ軍隊ニ準ス

ヘシ

官物

武器

一切

給興品

農具

鋤小大

二枚

砵中荒

二個

山刀

一枚

鉞

一枚

月
石
吏

鐮

一挺

鋸

一挺

鎌柴刈

二柄

筵

十枚

家具

鍋小大

二個

釜

一個

椀三ツ組

三人前

手桶

一荷

小桶

一具

擔

一荷

衣具

但十五歳以上四布一枚三布一枚十四

才ヨリ七才マテ四布一枚六才以下給

米七合 七六

十五歳以上一人分

米五合

十四才以下七才マテ一人分

米三合

六才以下一人分

金五十匁

十五才以上一人一月塩菜料

金三十匁七匁五匁

十四才以下七才マテ一人一月塩菜料

金貳拾五匁

六才以下一人一月塩菜料

金貳円

移住支度料十五才以上一人分

金壹円

移住支度料十四才以下一人分

金三十拾三匁

旅費日當一日十里詰七才以上一人分六才以下八匁半ヲ減ス

金貳円六拾匁

旅費一日十里詰一戸馬二匹ノ割
独身ノ者ハ此半ヲ減ス

居 宅

一戸

但家属アル者ハ一戸ヲ給シ独身ノ者ハ

一戸四人トス給助年限申妻ヲ娶ル者ハ

別戸ヲ給シ其妻ノ給助ハ夫ノ満期マ

テトス

埋葬料

金十三円

兵 員

金七円五十匁

家族七才以上

金三円貳拾五匁

同上六才以下

罰

一有事平時ニ関セス凡何田兵々器ヲ以テ犯セ

シ罪科ハ軍律ヲ以テ處分シ其奈平時ニアツ

テ武器ヲ用ヒサル者ハ國津ニ依テ處分スハ

シ

ヨリ出ス諸件ノ書類ヲ聯隊長ニ呈ス

中隊長

部下屯田兵ノ勤務ヲ指揮シ又専ラ會計諸務ヲ任シ小隊長ヨリ差出ス諸件ノ書類ヲ大隊長ニ呈ス

此官ハ部下小隊ノ人員諸官ノ取締等ヲ管理スヘシ

小隊長

屯田兵勤務上ノ細件ヲ管シ之ヲ指揮ス又小隊長ヨリ出ス勤務ノ書類ヲ檢シ部下ノ人員

調及諸取締等ヲ司トス

小隊長

平常諸位ノ勤務ヲ監シ諸位ヨリ出ス所ノ書類ヲ小隊長ニ出ス

勘定方

大隊長ノ指揮ヲ受テ用度金及諸物品武器等諸入費ノ精算ヲ為シ事務多端ナルハ軍曹ヲ以テ助役トス

大隊長ノ文書ハ此官之ヲ任シ中隊小隊小隊長ノ長官及伍長等ハ直ニ往復ス

中隊ノ人員及馬匹ノ名簿モ亦此官ノ司トル
所ナリ

下副官

大隊長ノ側ニ在テ中隊一般ノ勤務及首地ニ
在ル諸伍ノ事務取締等ヲ司トル

軍曹

小隊長ヨリ部下ノ諸伍ニ下シタル命令ヲ能
ク遵守スルヲ旨ニ注意シ又諸伍ノ武備諸番
械ニ損所アリテ引換或ハ修繕等ヲ頼ヒ出ル
ルハ精細ニ之ヲ改メ其破損ノ原因ヲ書記シ

テ小隊長ニ出シ處分ヲ受クベシ

伍長

伍中ノ取締ヲ為シ勤務ヲ指揮シ命令ノ布達
等ヲ司ル

晝夜ニ限ラス差起リタル事件アルカ又ハ勤
務ヲ為シタル片ハ直ニ小隊長ニ報知ス

至急ノ事件アル片ハ小隊長小隊長双方ニ報
知スルコトアル可シ

伍長疾病不在等ニ當リテハ古參ノ代田兵代
勤ヲ務ム可シ

兵種

名簿
番號

業職

已父

名姓

入營番號

入隊前履歷

貫屬	產所	住所	誕生	年齡	氏神	宗門	父母祭日	入隊後婚姻	何兵種入隊	年期	生兵	等級 一 二 等
祖父母	父母	父母	養父	養母	繼家兄弟	妻	子					
幹	顏	額	眼	鼻	口	題	髮	眉	痘	別徵		

入隊勤務

罰科

勤務缺課

出戰務

戰傷公傷

滿役或除役

賞典

戰死或病死

勤功休暇

精勤證書

